

大槻重之著

# インドネシア専科

第5巻 政治編

### 表紙絵清原嘉彦

ジャカルタの街の中心部に「イスタナ」と呼ぶ、大統領の迎賓館があります。お客さんが無い時は、当然ひっそりとして、警備の兵隊さんが若干いるだけですが、VIPのレセプションがある時は、この辺りは立ち入り禁止です。白亜の低い建物と、インドネシアの国章が印象的です。

はじめに

本インドネシア専科「政治編」は「インドネシア専科」シリーズ第5巻になる。これまで刊行した4巻と比べると今回の政治編の改定作業にはかなり手間取った。

そもそも元のホームページの記述は90年代の後半の政治情勢をもとにしたものである。その後の政治情勢の変化ははげしく、できるだけ近時点の政治情勢を補足するべく努めた。D-4章など全面的に書き換えが必要かもしれないと思ったが、現在の著者にはそれを行う情報源も気力もない。

今回、冊子として区切りをつけるためには既にある原稿の枠組みは生かしたまま、最近の政治情勢を織り込み最小限の手直しをしたものである。現在の政治界を知る目的からすれば隔靴搔痒の感は避けがたい。

しかしながら本冊子の存在意義を強弁するならば、古い原稿であっても今日のインドネシアの政治は国の成立⇒スカルノ⇒スハルトの歴史の延長にあるという確信である。

10年前の原稿を書いた当時を思い出すと、その頃はインドネシアの政治の爆発時期であった。インドネシア発の記事が新聞の第1面をにぎわし、磐石と思われたスハルト政権の崩壊を目の当たりにした。

インドネシアの政治はその後、大きく変革した。イスラムの存在が大きくなった。スハルトは失墜しても軍事体制が崩壊したわけではない。インドネシアの政治がどのような方向に向かうのか予断を許さない。

2007年11月

著者しるす

## インドネシア専科

### 編者前書き

2018年に亡くなった大槻重之さんから、この「インドネシア専科」をもう一度インターネットに挙げてほしいと生前依頼されたのでここに編集して掲載するものである。

編集にあたって、巻末の注を脚注に異動し、必要に応じて「編者註」も追加したものである。

図と写真は編者が作成・撮影して本文に追加したものである。

2019年6月

編者 田口重久 <omdoyok@infoseek.jp>

## 【政治編目次】

<b>D-1 国家の仕組み</b>		395. KKNのシンボル	39
365. パンチャシラの創造	7	396. 50人請願グループ	40
366. パンチャシラの実践	8	397. 7月27日事件	41
367. 多様性の中の統一	9	398. 1997年シラケ選挙	42
368. 単一共和国	10	399. 通貨危機の衝撃	43
369. 1945年憲法	10	400. 政権への執着	44
370. 国家組織	11	401. ハビビ副大統領	44
371. 地方組織	12	402. 暴動の列島連鎖	45
372. 国軍のなりたち	13	403. 首都騒乱	46
373. 軍人の二重機能	14	404. スハルト辞任	48
374. 国軍の組織	15		
		<b>D-4 政局の行方</b>	
<b>D-2 スカルノ体制</b>		405. ハビビ大統領の就任	50
375. シャフリルの登場	17	406. レフォルマシ	51
376. シャフリル体制	18	407. 闘争民主党の勃興	52
377. 第1回総選挙	18	408. イスラム政党の復活	53
378. 地方の反乱	19	409. 1999年自由選挙	54
379. 指導される民主主義	20	410. ハビビ大統領の業績	54
380. ナサコム体制	22	411. ワヒド大統領の登板	55
381. 共産党の跋扈	23	412. 大統領の入替え	56
382. 国軍との距離	24	413. メガワティ政権	57
383. スカルノ体制の破綻	25	414. 大統領直接選挙	58
		415. ユドヨノ政権	59
<b>D-3 スハルト体制</b>		416. 国軍・政権との距離	60
384. 9月30日事件	27		
385. ケーデター未遂	28	<b>D-5 イスラムと国家</b>	
386. 50万人殺戮	29	417. 国体論争	62
387. 3月11日大統領令	30	418. ムスリムの妥協	63
388. 政権発足の合法性	31	419. イスラム政党の潮流	64
389. 旧秩序から新秩序へ	32	420. ムスリムの苛立ち	65
390. マラリ事件	33	421. イスラム法と整合	65
391. 軍事政権の鎧	34	422. イスラム原理主義	66
392. 開発独裁	36	423. 国営宝くじ事件	67
393. ゴルカル/政府与党	36	424. モニートル事件	68
394. 国軍との綱引き	37	425. 福祉正義党の躍進	69

D-6 国家分裂の危機		D-8 国際関係	
426. 籐のゆるみ	71	458. 栄光のバンドゥン会議	104
427. 東ティモール問題の原点	72	459. 外交の軸足	104
428. サンタクルス事件	72	460. ASEANの隆盛	105
429. シャナナ・グスモ	73	461. 東ティモール後遺症	106
430. 東ティモールの暴動	74	462. 同族のマレーシア	107
431. 東ティモールの独立	75	463. シンガポールの存在	108
432. イリアン問題の原点	76	464. 中国の脅威	109
433. 自由パプア運動	77	465. PNGとの関係	110
434. 明けの明星旗	78	466. 近くて遠い対豪関係	111
435. アチェ問題の原点	79	467. イギリスとの関係	112
436. アチェ独立運動	80	468. オランダとの愛憎	113
437. アチェ問題の帰着	81	469. 米国との距離	114
438. 資源帰属の思惑	82	470. 対日複雑関係	115
<b>D-7 政治家列伝</b>			
439. スカルノの生い立ち	84		
440. 独裁者・スカルノ大統領	85		
441. スカルノの晩年	86		
442. スカルノ大統領夫人	87		
443. ハッタ副大統領	88		
444. シャフリル首相	89		
445. ハムンク・ブウォノ9世	90		
446. アイディット PKI 書記長	91		
447. アダム・マリク副大統領	92		
448. ナスティオン将軍	93		
449. スハルトの生い立ち	94		
450. 930 事件のスハルト将軍	95		
451. スハルト大統領夫人	96		
452. スハルトの子供達	97		
453. 老醜の元大統領	98		
454. ハビビ大統領	99		
455. ワヒド大統領	100		
456. メガワティ大統領	101		
457. 期待のユドヨノ大統領	102		

